

1 研究の概要  
 (1) 研究主題

「確かな学力を育む国語科の授業の創造」  
 -わかる・できる・ともに学ぶ国語科の授業づくり-

(2) 主題設定の理由

国際的な学力調査の結果から、文章や資料の解釈、熟考・評価や、論述形式の設問に課題があるなど、読解力が低下傾向であることがわかる。

今年度の埼玉県学力学習状況調査や全国学力・学習状況調査の自校採点においても、国語科では、「主語述語の関係」「適切に引用して書く」「目的や意図に応じ整理しながら要旨を書く」「場面の移り変わりを捉える」などに大きな課題が見られた。算数や理科においても、「基礎的な知識」「問題の読み取り」「課題の把握」などに課題が見られた。

教師にとって国語の授業に対する問題点は何か。ある研究グループが「国語の授業で教師が一番困っていること」の意識調査したところ、**指導方法63%、指導内容11%**、話し合い活動7%、その他6%、未回答13%であった。指導内容よりも、指導方法に教師の問題意識があると言える。学習指導要領の指導事項は各学年別ではなく、二学年ごとになっていることから、国語の指導内容は曖昧と言わざるを得ない。このような状況にあって、国語の授業は「活動あって、内容無し」と評価されることが少なくない。

そこで、国語の授業を行う場合は、教師自身がまず指導内容を明確にしてから、或いは整理してから具体的な指導方法を考えることによって、児童の総合的な基礎学力の向上を目指そうと、本主題を設定した。

(3) 研究の仮説

「活動あって、内容無し」を打開するために…

教材研究をすればするほど、あれもこれも教えたくなくなってしまふ。発問や活動も散漫になりやすくなり、結果的にわかりにくい授業になってしまう。

そこで、指導内容（学習内容）に焦点を当て、内容を思い切って精選し明確にすることとした。散漫になりがちな指導内容を精選し、本時に身に付ける学習内容を焦点化する。

そして、焦点化された指導内容（学習内容）を視覚化や共有化を図ることで、教師にとっても児童にとってもわかりやすい授業が展開できようと考えた。

仮説Ⅰ	指導内容を焦点化し、一時間ごとの学習内容を明確にすることで、教師は授業が展開しやすくなるであろう。 【焦点化】
手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領の指導事項が教材のどの部分に対応するかを考え、指導内容（学習内容）を教材に落とし込んでいく。</li> <li>領域の系統と指導事項の対応表を作成し、指導事項が精選されやすくする。</li> </ul>
仮説Ⅱ	ICTの活用、掲示資料のくふう、ワークシートの効果的な活用を図ることで文章が「見える化」され、構造的な文章の読み取りができるようになるであろう。 【視覚化】
手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を図やグラフ、表などに置き換えたり、置き換えたものを提示したりする。</li> <li>文章の構成をICT機器を活用して提示する。</li> </ul>
仮説Ⅲ	課題解決型の活動を取り入れ、協力して課題解決したり、自分が解決した内容や友達の考えを互いに根拠を明確にしながら話し合うことで主体的に学び合い、論理的な思考力が高まるだろう。 【共有化】
手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元を貫く言語活動を手段とし、課題解決型学習を取り入れ、児童が主体的に課題に取り組めるようにする。</li> <li>自分の考えを主張するだけでなく、友達の考えを聞いて自分の考えと比較検討し、より深い思考ができるようにする。</li> </ul>